

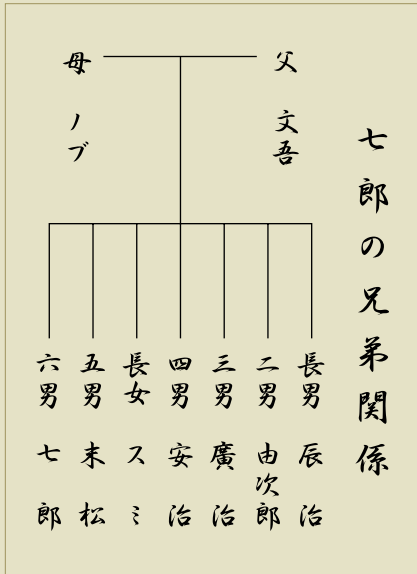
# 続・ふるさと

## 柔道整復師の法制化に

### 奔走した人②

第19回

萩原七郎は、明治13年12月2日に芳賀郡七井村大字七井の萩原文吾・ノブの末っ子の6男（7人の兄弟）として生まれた。明治29年3月、中学程度補修科全科を卒業後上京し、明治35年5月まで浅草向柳原戸沢徳三郎師範につき天神真楊流柔術と接骨術を修得し免許を伝授された。7人兄弟の3男廣治、4男安治、5男末松、6男七郎の4人が柔術と接骨術を修得しその道にすむ。明治25年3男廣治が東京市下谷区西町3番地の旧福岡柳川藩15万石伯爵立花邸内に柔術の道場「真道館」を開設した。明治35年兄たちの跡を継いで「真道



館」の3代目となった。この地から萩原七郎家の生立ちが始まった。当時は文武両道華やかな時代であり、新国劇の創始者の沢田正二郎や満蒙開拓義勇軍、内原訓練所長の加藤完治らも門人として入門していた。講道館柔道を創設した嘉納治五郎も明治10年天

神真楊流福田八之助師範に入門し初めて柔術を学び、明治15年学習院の教育を依頼された治五郎は、下谷区北稲荷の永昌寺に12畳の私塾を開き講道館柔道と嘉納塾をつくり文武両道の興隆に大きく貢献した。後に七郎と関わりができてくる。

### 編集後記

□秋晴れの空の下、今年で最後になる小学校の運動会が行われました。30年前のタイムカプセルが開けられたり、風船が空高く飛んでいたり盛り沢山な演出□でも、やっぱり運動会の主役は子どもたち。大きな声で叫んだり、元氣いっぱい走る姿は、いつまでも変わらない最高のシナリオ。この場所に育った人々には、感慨深い一日になったと思います。■タイムカプセルから出土？した作文を子どもに読まれ「何、これ？字がきたな〜い。あれ、まちがってる〜」苦笑いをするしかなかった私は、当時2年生。懐かしいやら、恥ずかしいやら……

(ネタ)



(頭胴長さ30~40cm、尾長さ10~20cm)

※写真提供：矢澤高史氏(宇都宮市)

町内全域に生息するイタチは、ほとんどがホンダイタチであり、体の大きさは雄が雌の1.5~2倍ある。戦前に朝鮮半島産のイタチを野ネズミ駆除対策として輸入して放されたチョウセンイタチは体が大きく、雌雄の差がない。

食性は小動物、魚類や昆虫類を好み、時にはニワトリの生き血をすするので害になることもあるが、素早い動きで野ネズミを獲り農作物や堤防決壊などの被害を防いでくれるので雌は狩猟獣からはずされている。

一夫多妻性で昼間は水路脇の土管や草むらや土穴で繁殖するが、生態は昼間は巣穴に潜み夜間に行動をすることが多い。

「イタチの最後尻」の諺は外敵に追いつめられたりすると肛門付近の臭線から悪臭を放すことからきている。

類似種=テン・ミンク・オコジョ

■編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>  
■苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

